




米沢「小さな親切」の会 会報

第 58 号

発行者 米沢「小さな親切」の会
 事務局 置賜総合文化センター内
 ☎ 0238-21-6111

ク リ ー ン 作 戦

7月6日(日)早朝、米沢市主催の松川河川敷「きれいな川で住みよいふるさと運動」に参加後、「観光客を親切な心でもてなそう」を合言葉に、本会独自で上杉神社周辺のクリーン作戦を行いました。

米沢信用金庫、山形銀行米沢支店、小島総本店、ナウエルの皆様に多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

優しい心と自らの
未来を拓く勇気を育もう



米沢「小さな親切」の会
 会長 種村信次

米沢「小さな親切」の会会報第五十八号の発行にあたり、市はじめ関係各位、並びに会員の皆様には日頃から「小さな親切」の会活動に対し深いご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

相変わらず国内外を問わず様々な心を痛める事象が氾濫し、先々が心配な状況が続いています。特にトランプ政策、格差の拡大、人口減少、AI、SNS等々が巻き起こす様々な問題は、これまでの常識や経験では解決の道が見えない状況にあります。

子供の頃、親から世の中にお役にたつ人間になれ、他人様のお役に立て、と教えられました。私たちは今、子供たちに何を伝えたらよいのでしょうか。思いやりの優しい心と、しっかりと考えて勇氣をもって立ち向かう心の二つを、大切にしてほしいと思います。私たちはこのことを念頭に「小さな親切」運動を進めてまいります。子供たちにはそれぞれ自らの未来を拓く勇氣を育んで欲しい、そう願っています。

さて、令和七年度の「小さな親切」運動は、多くの関係者のお支えをいただきながら活動してまいりました。

恒例の作文・ポスターコンクールについて、まず作文は、小中学校合わせて二・三一点の応募がありました。その中から優秀作品二十五点を全国コンクールに出品し、二中三年生丸山悠月さんの「見えない親切」が入選し、大変喜んでいらっしゃるようです。また、ポスターについては、同じく二・三〇点の応募があり、その中から優秀作品を「ナセBA」に展示し、大変好評をいただきました。例年通り作文は最優秀、優秀作品二十五点を作文集に掲載し、ポスターは優秀作品二十一点を載せたカレンダーを作成し、小中学校等に配布しました。

「小さな親切」実行章の表彰は、米沢警察署のご協力で、総数十三件、うち個人十一人、団体二件となりました。是非皆様からの推薦をよろしくお願いいたします。

第二十七回の「警察署長と小さな親切を語る会」は、例年通り開催し、署長講話の後、有意義な意見を取り交わすことができました。

最後に、二十一年半務めてまいりました会長を四月の総会をもって退任いたします。至らない会長でしたが、皆様のお支えに深く感謝申し上げます。次期会長には米沢信用金庫理事長加藤秀明氏にお願いする予定です。旧年度の温かいご支援に感謝し新年度も新体制で精一杯取り組んでいかれること存じますので、引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



ポスターの表彰

作文の表彰

優秀作文の朗読

10月25日 10月

第47回「小さな親切」の会

上半期の小さな親切「実行章」が、一団体三個人に贈られました。続いて、優秀作文の朗読と講評、ポスターコンクール優秀作品の紹介と講評に続き、それぞれ個人賞と、作文の部は第四中学校、ポスターの部は西部小学校と第一中学校に学校賞が贈られました。また、「あいさつ運動推進学校」の第七中学校と「小さな親切」運動実践協力校の南原小学校から取組の様子や成果が発表され、盛大な拍手が送られました。

9月 「小さな親切」作文・ポスターコンクール

今年度は、小中学校で作文一三二点、ポスター二一〇点の応募がありました。作文は、最優秀・優秀作品二十点から、全国コンクールで一点が入選となりました。また、ポスターでは、特選と金賞の作品六十三点がナセB Aで十月十五日から十九日まで、また、特選作品が米沢信用金庫ロビーにて十一月四日から十四日まで展示され、好評を博しました。



ポスター審査風景

7月6日 7月

第12回クリーン作戦
早朝、松川河川敷で行われた「きれいな川で住みよくなる」と運動に今年も参加し、ゴミ拾いを行いました。その後、松が岬公園に移動し、観光客を「親切な心でもてなそう」を目標にして、本会独自で清掃活動に取り組みました。協力企業からも多数参加していただき、上杉神社周辺をきれいにしました。



活動中の参加者

4月25日 第53回総会 (2025年)

4月



講師 山岸幸一氏

作業中の山岸氏

議事後、日本工芸会正会員の山岸幸一氏を講師にお迎えし、「日本の色 天然染織の魅力」なぞ手仕事なのか天然の染料なのか」と題して、赤崩の清らかな流水を使い、美しい草木染の袖(つむぎ)を製作する魅力についてお話をお聞きしました。



種村会長挨拶

種村信次会長の挨拶に続き、近藤洋介米沢市長と大場恵子県本部事務局次長から祝辞をいただきました。昨年度に続き、山形県本部より「あいさつ運動推進学校」に米沢市立第七中学校(地主忠亮校長)が、また、原小学校(高野浩男校長)が委嘱されました。会長から二校に活動奨励金が贈呈され、それぞれ教頭、校長が取組表明を行いました。

米沢「小さな親切」の会 この一年

「小さな親切」実行者をご推薦ください!

実行章の贈呈は、私たちの身近にいらっしゃる、町の「親切さん」に、全国本部より「小さな親切実行章」を贈呈し、地域社会に「思いやりの心」を広めることを目指しています。昭和38年の運動発足以来、全国で約600万人が受章されています。日常生活のさりげない親切や、人のために役立つ活動、心温まるおこないに「ありがとう」の感謝の気持ちを込めて顕彰するものです。団体でも個人でも推薦可能です。推薦については、下記事務局までお問い合わせください。

令和7年度実行章受章者

- | | |
|----------------|--------------|
| ◆ 米沢御堀端史跡保存会 様 | ◆ 山建工業株式会社 様 |
| ◆ 青柳 信哉 様 | ◆ 森下 可恋 様 |
| ◆ 伊藤 英雄 様 | ◆ 森下 淳様 |
| ◆ 奥村 美紀穂 様 | ◆ 山田 泰幸 様 |
| ◆ 金澤 哲 様 | ◆ 淀野 雄一 様 |
| ◆ 桐田 拓弥 様 | ◆ 渡部 吉弘 様 |
| ◆ 宍戸 直弘 様 | |



実行章の伝達

米沢「小さな親切」の会 事務局
米沢市教育委員会 社会教育課 内
21-6111 担当 鈴木

「小さな親切」運動本部 作文コンクール 50回記念表彰

「小さな親切」運動本部作文コンクール50回目を記念して、全国でコンクールを支えてこられた審査員の皆様をたたえるという趣旨で表彰が行われました。米沢市からは平成22年からの15年間で10回以上務めてくださった方を目途に推薦させていただきました。

受賞された皆様

- | | |
|------------|-----------|
| ◆ 金岡 正義 様 | ◆ 岡正 義 様 |
| ◆ 平塚 美枝子 様 | ◆ 塚美 枝子 様 |
| ◆ 江川 栄助 様 | ◆ 川栄 助 様 |
| ◆ 手塚 宮雄 様 | ◆ 塚宮 雄 様 |
| ◆ 佐藤 美知子 様 | ◆ 藤美 知子 様 |

1. 親切の発見

あなたが受けた見たりした親切、地域で話題になった親切を推薦してください。

2. 推薦書の送付

米沢「小さな親切」の会事務局が、運動本部に推薦書を送ります。

推薦から受章まで

4. 受章者の発表

米沢支部事務局から本人に受章の連絡をします。本部ホームページにも掲載されます。

3. 受章の決定・通知

運動本部で受章者を決定し、米沢支部に通知します。

令和7年度 第50回全国「小さな親切」作文コンクール 入選



米沢市立第二中学校
三年 丸山 悠月

「見えない親切」

世の中には、誰にも気づかれないことのない目に見えない親切もあると思う。これは、私が体験した話だ。

今年の春、病院での出来事だった。長椅子の端に座り待合室で診察の順番を待っていると、若い女性と車椅子のおばあさんが入って来た。服装や様子から若い女性は、付き添いで来た老人ホームなどの施設の職員さん、おばあさんは施設の利用者さんだとわかった。受付を終えて職員さんは、おばあさんを待合室の壁側に寄せて私の二つ前の椅子に座った。おばあさんは車椅子で椅子に座れなかったのだ。職員さんとおばあさんの距離は少し遠かった。

おばあさんは職員さんとお話が出来なくて、何度か職員さんをおぼえていた。職員さんは、初めはおばあさんの呼びかけに返えていたが、少しするとおばあさんに優しく注意して応えるのをやめた。待合室にはテレビもついていて、二人は小さな声で話していた。おばあさんのところへ移動する

世の中の患者さんに配慮してのことだったのだろう。仕方がないことだと思っただけ、おばあさんがとても可哀想に見えた。

ふと、私は職員さんと席を交換しようと思った。私の席が偶然おばあさんのすぐ隣で、職員さんの席よりずっと近かったからだ。もしかしたらお節介りかもしれない。席を空けたところでは、空けた席に座ってくれるかはわからない。不安になったけれど、二人のために何かしたいという気持ちの方が大きかった。

私は、職員さんが看護師さんと呼ばれ部屋を出た隙に席を立って移動した。ほとんど勢いで立ってしまったし、緊張で移動の動きもぎこちなかったと思う。用事もないのにいきなり立って席を移動したので、他の患者さんは驚いたかもしれない。周囲の視線が恥ずかしくて、移動した席に座ってもどきどきしていた。授業で発言したときのように顔も耳も熱くなっていた。でも、不思議と清々しい気分だった。

しばらくして、職員さんが帰ってきた。病院が混んで席が限られていた事もあり、職員さんは心配していたよりもすんなりおばあさんの隣に座ってくれた。おばあさんは職員さんが隣に来たことに驚いていたけど嬉しそうだった。きっと二人は私が意図的に席を変えたとは気づいていないだろう。それでも良かった。お節介りだったとしても、行動して良かったと思った。楽しんで笑顔を話しているのを見て、私も嬉しくなった。

社会には誰かに気づかれない「ありがとう」といわれてこそ、目に見える親切が多いと感じる。でも、見えていないだけ、気づいていないだけで、世の中にはもっとたくさんのお小さな親切が隠れているのかもしれない。私は今回親切をする側になって初めて、このように小さな親切に気づくことができた。この経験を活かしてこれからは、さらに周りに気を配り、受けた親切に気づける人になりたい。

(2026年)

2月

第49回「上杉雪灯籠まつり」

2月14日～15日

恒例となった雪灯籠の製作を本会協賛企業から応援をいただき、楽しく賑やかにを行いました。天候に恵まれ、上杉神社の手水舎前に立派な雪灯籠を完成させました。今年も多くの観光客が訪れたおまつりに「小さな親切」の温かい灯が灯りました。協賛企業の皆様はじめ制作にあたられた皆様に感謝申し上げます。



制作スタッフと雪灯籠

第27回米沢警察署長と「小さな親切」を語る会

2月20日



活発な意見の交換



佐藤守米沢警察署長の講話

初めに「小さな親切実行情」の顕彰を行い、続いて米沢警察署長、佐藤守様より「米沢警察署管内の治安情勢等」についてご講話をいただきました。特殊詐欺やSNS型投資、ロマンス詐欺が大きな課題であること、偽警察詐欺が多発していること、交通事故は減少しているがゼロにはなりにくいこと等、わかりやすく説明していただきました。懇談会では、講話の内容を踏まえつつ、「思いやりの心を育てること」や「住みよいまちづくり」について和やかに意見交換がなされました。

思いやりの心をひとつに!!

協力校・推進校の取り組み

第七中学校

さらなる深化を遂げる七中の挨拶

本校には、歌手の小椋佳氏が作詞作曲された校歌の精神「大声で響く挨拶」という開校以来の伝統があります。今年度までの二年間、本校は「あいさつ運動推進学校」として、学級や部活動単位での朝の挨拶運動などの活動を通して、全校体制で挨拶の意識統一を図ってまいりました。



小中連携あいさつ運動

今年度の生徒会は「思いやりの輪を広げ、ともに高め合う七中生徒会」を目標に掲げました。その象徴的な活動が、今年度から本格始動した小中連携事業「スマイル リンクプロジェクト」です。本校生徒が校区の小学校を訪れ、元気な挨拶を届けるこの活動は、小学生の模範となるだけでなく、中学生自身の使命感や自己肯定感を高める契機となっています。



クラス毎のあいさつ運動(ここあ活動)

南原小学校

「小さな親切」運動実践協力校(米沢支部委嘱)

昨年年度に引き続き、今年度も学校スローガン「We Love南原!」の実現に向けた教育活動、そして「小さな親切」運動の趣旨を踏まえた実践を行ってまいりました。学校行事や総合的な学習の時間等を通して、南原の「ひと・もの・こと」と関わり、地域を元気にしてきた取組を紹介いたします。

◎三・四年生総合的な学習の時間

今年度から本校では「チーム(学年部)担任制」を行っており、三・四年生合同で総合的な学習の時間に取り組んでいます。地域の魅力発信をテーマに「笹野一刀彫り(お鷹ぼっぼ)」について学んできました。市内や県外の小学生に認知度を確かめるアンケートを行いました。すると、「お鷹ぼっぼ」自体を知らない人もおり、PR活動が展開しました。ポスターやチラシ、かるたやCM等を作成して地域を元気にしたいと、熱心に学習に取り組んでくれました。他の学年でも、生活科や生活単元学習等で「We Love南原!」を意識した取組を行ってまいりました。これからも南原地区に愛着をもち、南原の未来をつくることのできる児童の育成を目指した教育活動を展開していきます。

と盛り地も、盛りの地も、地域の皆様に喜んでもらいたく、喜んでいただきました。



児童考案種目「大玉転がし」



東京の小学校とリモート会議